

道

NO. 150

2013. 3. 19

卒業式での代表生徒の言葉の紹介 その2

そして、4月。私たちは最上級生になりました。進路に対しての実感が湧かない中、私たちにとっても、この学校にとっても最後の1年が始まりました。最初に終わりを迎えたのは運動会。準備期間は修学旅行への取り組みと重なり、とても忙しい毎日でした。しかし、そのことを言い訳にせず、毎日の練習に全力で取り組みました。途中、練習で怪我をしてしまう人もいましたが、『勝つこと』より『全員で戦う』ことを優先し、クラスの絆を創りあげる上で、大きなきっかけになったと思います。慌ただしい2週間が過ぎ去り、運動会当日。最初から全力で競い合い、大きな点差がつくことはありません。競技に向かう時には『頑張れ』と背中を押して送り出し、帰ってきた時には『お疲れ』と肩を抱いて迎えました。この日までの練習を手を抜くことなくこなしてきたからこそ、できたことだと思います。午前の部が終わり、午後の部は応援合戦から始まりました。全員で盛り上がり、これからの競技にもさらに力が入ります。そして気がつく、残す競技は2つとなっています。全員で挑む最後の競技、大縄跳び。疲れはピークに達しています。それでも息を引き締め、やりきった達成感は忘れることができません。そして迎えた運動会最後の競技である学級対抗リレー。この時、全員が勝ちたい、笑顔で終わりたいと思っていたはず。走って応援して、この日一番の盛り上がりを見せました。結果発表で確かに順位は決まりましたが、点差はわずか。先生方が望んでいた『全クラス優勝』に近い形で終わることができました。泣いて笑って、抱き合ったこの日を私たちはいつまでも覚えていると思います。

運動会の1週間後には、待ちに待った修学旅行。2泊3日で京都と奈良を観光しました。班ごとに計画を練ってきましたが、初日から大雨に見舞われてしまう結果に。靴や制服が濡れ、予定していた通りにいきませんでした。そんな中、私たちが考えて行動できたのは、それまでの経験のおかげです。初日の京都ではチェックポイントが清水寺にあり、全員が『清水の舞台』と呼ばれるあの景色を見ました。写真で見たことがある場所に自分がいると思うと、少し不思議な気持ちになりました。そして2日目には、奈良を観光しました。この日のチェックポイントは東大寺。想像以上の鹿の多さに、驚きを隠せませんでした。道で売っている鹿せんべいをあげたり、鹿を撫でたりしていた人もいたのではないのでしょうか。宿舎へ戻り、夕食が済むと、夜の京都を少しだけ散策しました。この散策は予定にありませんでしたが、皆の頑張りのおかげで、校長先生に信頼してもらえたため実現したのです。3日目にはお土産を買い、1日目に回れなかった京都の町を回りました。帰りの新幹線では疲れて寝ている人、思い出話を華を咲かせている人もいて、とても充実した3日間になったと思います。

夏が過ぎて衣替えも終わると、あっという間に文化祭。最高学年として挑んだ今年度は、例年の合唱コンクールに加え、有志によるロックソーラン節も行いました。

朝の早い時間や放課後の決められた時間を使いこなし、両方とも準備を進めてきました。今までよりも難しい合唱曲、私たちだけのロックソーラン節。完成度の高いものを目指すからこそ、ぶつかることもありましたが。文化祭当日。1年生の時から続けてきた合唱コンクールも、この日で終わります。指揮者、伴奏者はもちろん、全員が緊張していたと思います。それでも、積み重ねた練習を信じて歌いました。誰も歌詞を間違えることなく、どのクラスも素晴らしい合唱となりました。そして、文化祭のトリを務めたロックソーラン節。体育館全体を使ってのパフォーマンスは有志の多さ、この学年の積極的なところを表していました。練習では一度も上手くいかなかったタワーも、本番では見事成功し、感動的な文化祭となりました。

3つの大きな行事が終わり、残すは受験のみ。一人ひとりの努力によって結果が左右されるので、不安で胸がいっぱいでした。まだまだ先の話だと思っているうちに年が明け、私立推薦入試を迎えました。この入試で一足先に進路が決まった人も、他の人の受験に向けた雰囲気作りに協力します。そして、1月27日には都立の推薦入試。この日のために何度も面接の練習をしました。当日はとても緊張しましたが、送り出してくれた仲間たちや先生方の言葉を思い出し、何とか乗り越えました。その約1ヶ月後、都立一般入試。不安は消えず、入試に近づくにつれて、皆の表情は暗くなりました。2週間前になると、どの教科も入試に向けた授業に。中には、入試の前に終わりを迎えた授業もあり、またひとつ卒業に近づいた気がしてさみしくなりました。一般入試当日は、全員がこれまでの努力を信じ、不安と戦いながら挑みました。力を出し切ったためか、月曜日からのテストにはなかなか身が入りません。落ち着かない空気の中、気がつけば2月28日の合格発表。朝から教室は、緊張した空気に包まれていました。1時間目、2時間目と時間が進み、教室に人が戻ってきます。合格したことが分かると、自分のことのように嬉しくなりました。残念ながら自分が希望している道に進むことができない人もいますが、『お疲れ様』と声をかけ合い、私たちの受験は幕を閉じました。

この中学校生活は、とても有意義であつという間でした。授業や普段の生活を通して、たくさんのことを学び、活かしてきました。怒られることもありました。その分成長して、今ここにいます。仲間と協力し、様々な困難を乗り越え、絆を深めてきました。先生方を含め、この学年に関わる人がひとりでも違っていたら、今の私たちはいません。このメンバーで、向中を卒業できることをとても嬉しく思います。そして、向中最後の卒業生となれることは、私たちの誇りです。本当に3年間有難うございました。

さて、在校生の皆さん。4月から皆さんは、桜堤中学校の生徒となります。この学校で経験したことを活かして、新しい仲間と共により良い学校を築きあげていって下さい。応援しています。

最後になりますが、先生方、主事さん方、在校生の皆さん、保護者の方々、地域の方々、このような素晴らしい卒業式を開いて頂き、有難うございます。私たちは今日、向中を卒業します。皆さんもご存じの通り、この学校は男女関係なく仲が良く、何事も率先してやります。そして、何より笑顔が多い学年でした。嫌なことがあっても、仲間の顔を見れば安心することができました。そんな仲間たちと別れることに不安やさみしさもありますが、それぞれの場所で頑張り、成長した姿で再会できることを願っています。この3年間を共に過ごした仲間へ感謝して、前に進みましょう。有難うございました。

岸浪 静流

お詫び

学年通信という形で学年の紹介をしてきましたが、今回をもちまして最終となります。ここまで続けてこられたのもみんなのお陰と感謝しています。この紙面をもちまして、最後に誤字、脱字のお詫びを申し上げます。有難うございました。